

第3学年 中学校音楽科学習指導案

奈良教育大学大学院専門職学位課程教科教育コース音楽2年

金谷 双葉

1. 題材名 「世界をつなぐ音 ―平和を伝える「鐘」―

2. 教材名 仲里幸広作曲《HEIWAの鐘》、セルゲイ・ラフマニノフ作曲《鐘》

3. 題材の目標

○身近な鐘、日本や世界の鐘の特徴を知り、それらが文化や歴史の中で果たしてきた役割や「平和」との結びつきを理解した上で、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌っている。 (知識及び技能)

○歌詞の内容や曲想、鐘と人々との結びつきを多面的に捉え、声部の役割と全体の響きとのかかわりを感じながら音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて考え、音楽の良さや美しさを表現している。

(思考力・判断力・表現力等)

○鐘に込められた祈りや平和の思いに関心をもち、自らの感じ方や考えを仲間と交流しながら、未来に平和を守っていくために主体的に考え、行動しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

4. 題材について

(1) 教材観

教材として扱う《HEIWAの鐘》は、沖縄県出身のアーティストである中里幸広が作詞・作曲をした混声三部合唱曲である。作者は、東京での活動中、沖縄で起こった米兵による少女暴行事件に強い衝撃を受けた。沖縄を離れたからこそ故郷への想いが強まり、平和のために自分にできることとして、本楽曲を作曲をした。

前奏から勢いよく始まる「LALALA」の歌い出しや、サビで全パートのリズムが揃う場面など、音楽の力で平和への願いや思いを届けようとする強いメッセージ性をもっている。歌詞においては、戦争への悲しみや後悔を描きながらも、「僕らの生まれたこの地球に奇跡を起こしてみないか」と未来への希望を語っており、生徒が平和を自分事として捉え、発信する力を育てることのできる教材である。

《鐘》は、ロシアの作曲家セルゲイ・ラフマニノフが19歳のときに作曲したピアノ独奏曲である。冒頭から低音による重厚な和音が繰り返され、ロシア正教会の鐘の響きが感じられる。本題材において《鐘》は、《HEIWAの鐘》の理解を深めるための比較教材であり、鐘が文化や宗教、時代を超えて人々の祈りを担ってきたことを実感的に理解させる役割をもつ。ロシアにおける鐘の文化や背景と関連付けることで、音楽が社会や文化と結びついていることへの理解も促される。さらに、ピアノ独奏による生演奏や、フィギュアスケート選手浅田真央さんの演技の視聴を取り入れる。それにより、本楽曲の多様な表現との出会いを通して、音楽を多面的に捉える力や、作曲者の思いを尊重して音楽に親しむ姿勢を育むことができると考える。

本題材では、合唱発表会に向けて取り組む中で、生徒が「なぜ歌うのか」「どんな願いを届けたいのか」を自ら考え、共有した目標に歌詞と音楽を関連させながら表現を工夫し、他者へ伝える力を育てることができる。学習の最後には、合唱発表会や、それに向けたパンフレットの制作などを通して、平和について考えたことを社会に発信する行動へとつなげていきたい。

(2) 生徒観

本校では、合唱を常時的な活動として位置付け、毎日の帰りの会の時間に学級ごとに合唱を行っている。さらに、月に一度は学級間や学年間での交流も実施し、生徒同士が互いに刺激をし合いながら活発に取り組んでいる。合唱コンクールや卒業式の合唱にも、生徒が中心となって積極的に参加する文化が根付いており、1・2年生は3年生の合唱に憧れをもち、音楽が演奏者はもちろん鑑賞者の心にも響くものであることを実感する様子がある。

(3) 指導観

音楽科の授業では、「世界をつなぐ音」として、年間を通じて一つのテーマを探求しながら合唱を作り上げる活動を行う。本題材は、シリーズ第1弾の「平和を伝える「鐘」」である。本学習では、SDGs16「平和と公正をすべての人に」を目標に掲げ、「鐘」の万国共通性をテーマに、地域の鐘や日本各地の多様な鐘、さらに世界の鐘とその文化的背景に触れる。鐘そのものが戦争を止めるわけではない。しかし、鐘がもつ平和を祈る象徴としての力や、そこに込められた思いを子どもたちが学習することにより、自らで発信し、次世代に伝えることが未来の平和づくりへの大きな一歩になると考える。また、生徒は小学校6年生の修学旅行で広島を訪れ、戦争の歴史や平和の大切さについて学んでいる。その経験を踏まえ、音楽を通して平和への思いを表現することを大切にしている。

【みつめる】では、生徒が《HEIWAの鐘》の音源を聴き、感じたことや想像した情景を自由に表現できるようにする。この段階では短い文章や箇条書き、簡単なイラストで書いて良いと伝え、音楽から感じたことを思うままに表現することを大切にしている。次に、なぜ「HEIWAの“鐘”」というタイトルがつけられたのか、曲の歌詞や曲想を手がかりに、鐘の意味や役割について考えさせる。身の回りにはある鐘を思い浮かべながらこの曲における鐘はどのような様子なのかを想像し、文章で表現させる。必要に応じてイラストを用いてよい。その際、音楽を形づくっている要素（特に旋律、リズム、歌詞など）を用い、根拠づけて述べられるようにしている。

【しらべる】では、東大寺の鐘や広島市の平和の鐘など、日本各地に存在する鐘に触れる体験を通して、鐘が時代や場所によって異なる役割や意味をもってきたことに気付かせる。東大寺の鐘については、その歴史や複数の役割に着目させる。東大寺のご住職や、明治時代初期からの伝統を受け継ぎ、毎晩20時の打鐘を担っている大鐘家の方へのインタビューを通して、鐘が広い意味での幸せや平穏を祈る存在であることを理解させる。また、広島平和記念式典で鐘が鳴らされる様子を映像で視聴し、修学旅行で訪れた平和記念公園で実際に聴いた鐘の音やその場の雰囲気を感じさせる。戦争を二度と繰り返さないという強い誓いを伝える存在としての鐘の役割に気付かせ、東大寺の鐘と比較させる。これらの学習を通して、「平和」の捉え方は一つではないことに少しずつ目を向け、鐘の音や音楽が人々の思いや願いに寄り添ってきたことを理解させる。

【ふかめる】では、ラフマニノフ作曲《鐘》の鑑賞を通して、鐘が文化や宗教、歴史と深く結びつき、人々の感情や祈りを表現してきたことを学ばせる。また、1913年という第一次世界大戦前の不安定な時代背景にも触れ、当時の人々がどのような思いで鐘の音に親しんだのかを考えさせる。曲想の変化や音楽を形づくっている要素（旋律、リズム、強弱、形式）に着目しながら聴き、作曲者が思いや情景をどのように音楽に表しているのかを、知覚したことと感受したことを結び付けて捉える力を育てる。また、ピアノの生演奏やフィギュアスケートの演技などの多様な表現に触れることで、音楽を多面的に味わわせる。

【ひろげる】では、これまでの学習で考えてきた、鐘や音楽が人々の思いや願いを伝える働きをもっていることを踏まえて《HEIWAの鐘》の合唱表現に生かす。生徒が日常生活を振り返り、自身や仲間が思う平和と歌詞の内容を結び付ける。さらに、どのような音楽表現で他者に思いを届けたいのかを考え、声の出し方や響き、ハーモニー、強弱、表情を工夫する。最後に、合唱発表会を行い、その準備から振り返りまでを通して、音楽が人と人を結ぶ力をもつことを実感させ、音楽を通して主体的に社会とつながりをもとうとする態度を育てる。

5. ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

○公平性…戦争や差別によって命や尊厳を奪われてはいけないこと、公平であることの大切さ

○連携性…音楽や「鐘」が国や世代を超えて人々をつなぐ力をもつこと

平和な社会の実現のために、一人ひとりが思いをもち、他者と協働していく必要があること

○責任性…今の自分の行動が、未来の社会につながると実感すること。

・本学習を通して育てたい ESD で育てたい資質・能力

○批判的に考える力…「平和とは何か」を演奏や鑑賞を通して感じ、問い直す。

○未来を予測して計画を立てる力…これからの社会を見据え、平和を守るために自分ができることを考える。未来を生きる人々に何を伝え、どんな社会を築いていくべきかを想像する。

○つながりを尊重する態度…戦争の歴史や他者の体験、「鐘」のもつ万国共通性に触れ、命のつながりや人のつながりを尊重する。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

○世代間の公正…過去の戦争を振り返るとともに、現在も世界では紛争や戦争が起きていることを知り、これからは生きる私たちが「平和を願い続ける」ことの大切さに気付く。

○世代内の公正…今を共に生きる仲間と歌うことで、互いに尊重し合い、平和を願う姿勢を育む。

○人権・文化を尊重する…平和を守ることは、一人ひとりの人権や尊厳を守ることにつながると気付く。互いの音楽表現を認め合い、尊重し合う姿勢を養う。

・達成が期待される SDGs

【目標 16 平和と公正をすべての人に】…戦争や争いのない世界を実現し、人権を大切にする社会を築く。音楽や「鐘」を通して、国や言葉を超えて平和を伝える。

【目標 17 パートナリーシップで目標を達成しよう】…「HEIWA の鐘」を合唱することを通して、音楽には人々をつなげる力があることに気付く。

6. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><u>知</u> 身近な鐘、日本や世界の鐘の特徴を知り、それらが文化や歴史の中で果たしてきた役割や「平和」との結びつきを理解している。また、《HEIWA の鐘》や《鐘》の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p><u>技</u> 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌っている。</p>	<p><u>思</u> 歌詞の内容や曲想、鐘と人々との結びつきを多面的に捉え、声部の役割と全体の響きとのかかわりを感じながら音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて考え、音楽の良さや美しさを表現している。</p>	<p><u>態</u> 鐘に込められた祈りや平和の思いに関心をもち、自らの感じ方や考えを仲間と交流しながら、未来に平和を守っていくために主体的に考え、行動しようとしている。</p>

7. 指導の計画（全 11 時間）

	学習活動（毎時の授業で合唱練習をする。）	◇学習への支援
み つ め る	<p>◎鐘ってなんだろう。なぜ鐘を鳴らすのだろうか。</p> <p>○《HEIWA の鐘》の音源を聴き、感じたことや想像した情景を自由にワークシートに記入する。</p> <p>・ワークシートは以下の構成とする。</p> <p>①思い浮かんだ情景</p> <p>②音楽から感じ取ったことや、伝わってきたメッセージ</p> <p>例「戦争のことなのかな」</p> <p>「初めの部分が鐘の音に似ている」</p> <p>「平和を伝えている感じ」</p>	<p>◇生徒が音楽から感じたことを自由に表すことができるよう、短い文章や箇条書き、簡単なイラストで書いても良いと伝える。</p>
	<p>○なぜ「HEIWA の“鐘”」というタイトルがつけられたのだろうか。曲の歌詞や曲想を手がかりに、「鐘」の意味や役割について考える。</p> <p>・ワークシートは以下の構成とする。</p> <p>①身の回りにはどんな「鐘」があるのか。</p> <p>例「チャイム」</p> <p>「お寺にある鐘」</p> <p>②曲が表している「鐘」は、どのような音・様子の鐘なのだろうか。また、なぜそのように感じたのか（旋律、リズム、歌詞などに注目）。</p>	<p>◇鐘は英語で“bell”であることを口頭で捕捉し、身の回りには多様な種類の鐘があることに気付かせる。</p> <p>例 お寺の鐘、チャイム、呼び出しベル</p> <p>◇鐘の見た目や用途、どこにあるのかに注目するよう促し、具体的に想像させる。</p> <p>◇音楽から知覚したことと感じたことを関連づけられる問いかけをする（例「祈ってるみたいだと言ってたね。どの旋律がそう感じたの？」）。</p>
し ら べ る	<p>〈地域にある鐘〉</p> <p>○東大寺の鐘を聴き、音の大きさや響き、余韻を体で感じる。</p> <p>・「からだに響いてきた！すごい迫力！」と感じたことをつぶやく。</p> <p>・「大きい音だけど、なんか落ち着く…」と音による心情の変化に気づく。</p> <p>○東大寺の鐘の歴史や複数の役割（祈り、時刻の知らせ、人の心に寄り添う象徴）について、ご住職や大鐘家さんにインタビューをする。</p>	<p>◇東大寺の鐘の音を聴き、感じたことを全員で共有できる場をつくり、多様な感じ方があることを認める。</p> <p>◇鐘の音を不快に感じた生徒には、なぜそう感じたのかを問い、鐘の役割を考えるきっかけとする。</p>
	<p>〈日本にある鐘〉</p> <p>○広島平和記念式典で鐘を鳴らす様子を映像で視聴し、修学旅行で聴いた広島平和記念公園の鐘の音や、その場の様子を想起しながら、鐘が鳴らされる場面や意味について考える。</p> <p>・「静かな中で鳴っていて、気持ちが引き締まった」</p> <p>・「この音を忘れないようにと言われていた感じがした」</p> <p>・「大きな音で、戦争を二度と繰り返さないことを誓っているのかな」</p>	<p>◇広島平和の鐘を扱うときは、建設趣旨やデザインの資料を提示し、子どもの発見を意味づけにつなげる。</p> <p>◇鐘が誰に向けて鳴らされているのか、どのような思いをどんな音で伝えようとしているのかに着目させる。</p>

	<p>・「鐘を鳴らすたびに平和のことを思い出せる」</p> <p>○平和記念式典では、同年代の子どもが代表して鐘を鳴らす姿から、未来に平和を守っていくために、自分たちにも大きな役割があることに気付く。</p> <p>・「自分たちが鳴らすことで、次の世代に繋げているのかな」</p> <p>○東大寺の鐘と広島市の平和の鐘の共通点や違いを整理する。</p> <p>共通点・音が遠くまで響く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・願いを込めたり、思いを人に伝えるために鳴らす <p>違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東大寺の鐘は毎日の習慣、昔からの伝統、お寺の人が鳴らす、広い意味での平和を祈る ・広島市の平和の鐘は慰霊の日に鳴らす、子どもが鳴らす、戦争を二度と繰り返さないと誓う、平和を祈る 	<p>◇「なぜ大人ではなく、子どもが鳴らすのだろうか」という問いを投げかける。</p> <p>◇2つの鐘を比較することで、同じ鐘でも、鳴らされる場面や担う役割によって意味が異なることに気付かせる。</p>
ふかめる	<p>◎どのような思いでラフマニノフは《鐘》を作曲したのだろうか。</p> <p>〈世界にある鐘〉</p> <p>○ラフマニノフ作曲《鐘》の作曲背景や、ロシア人と鐘の深い結びつきについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本楽曲が作られた1913年は、ロシア帝国の繁栄期にあった一方、バルカン戦争が起こり、やがて第一次世界大戦へと向かう不安定な時代であったことを知る。当時のロシア（クレムリン）では、教会の鐘が常に鳴り響き、信仰の度合いに関係なく、人々の心に寄り添っていたことを理解する。 ・現在のクレムリンは軍事パレードの場所として使われていることや、日本では、戦時中に金属供出によってお寺の鐘が回収されていたことを知る。 ・時代や社会の変化によって、鐘の意味や役割がどのように変わるのかを考え、「平和を祈り、人々の心のよりどころである鐘がそのような使われ方をして良いのか」と疑問をもつ。 	<p>◇日本とロシアの鐘を比較できるように、映像や写真資料を複数提示し、共通点と相違点を整理させる。</p> <p>◇「鐘は、言語が違っていても思いを伝えられる」という意見が出たときは、鐘の万国共通性や音楽の普遍性に触れさせ、学びを広げる。</p>
	<p>○《鐘》の曲想が大きく変化するABA'の3つの部分に分けて聴く。各部分で感じたこと（鐘の様子や情景、作曲者の思い）となぜそう感じたのか（旋律、強弱、リズム、形式がどのように働いているか）をそれぞれワークシートに記入する。</p> <p>・「低音の響きで恐怖を感じた」、「クレッシェンドの部分が祈りみたいに聞こえる」と知覚したことと感じたことを関連させる。</p> <p>例</p> <p>A 壊れかけの鐘←右手の下行形 不気味、暗い←細かいリズム</p> <p>B 争いみたい、怖い←強い、Aより細かいリズム</p> <p>A' 少し明るい←Aより間隔がある 争いは、いつ終わるのだろうか←これまでで最も強い</p>	<p>◇生徒が音楽から知覚した要素を教師が部分的に演奏することで、他の生徒も実感を伴って理解することができる。</p> <p>◇生徒が知覚したことと感じたことを関連させて発言するために、「重い低音が鳴り響く“から”恐ろしく感じた」というように接続詞や言い回しを教師が示す。</p>

<p>○フィギュアスケート選手浅田真央さんの《鐘》を用いた演技を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅田さんが身体全体を使い、どのような思いをもって表現しているのか感じとる。 ・赤と黒の衣装にも注目し、表現に与える影響を考える。 例 赤=情熱、怒り 黒=恐怖、不安 <p>○《鐘》の音楽表現（強弱や速度の変化）を自由に考え、それをもとにした教師のピアノの生演奏を鑑賞する。</p> <p>例「より多くの人を救えるように、大きな音で奏でたい。」 「ゆっくり間を空けて、鐘の余韻のように響きを残したい。」</p>	<p>◇浅田真央さんがなぜ《鐘》を選曲し、どのような思いで表現したのかは公表されていないが、何かしら思いをもって表現していることに触れ、本人の立場になって考えるよう声掛けをする。</p> <p>◇自分たちの思いが音楽で表されている様子を五感で感じられるよう、生徒の考えた音楽表現の違いを聴き取りやすい演奏を意識する。(強弱や身体の動きの変化を大きくつける。)</p>
<p>◎多くの人に平和の大切さを知ってもらうためにできることを考えよう。</p> <p>○学校生活や日常の場面を思い浮かべ、戦争がないことだけが平和なのではないと気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して過ごせるときはどんなときなのか考える。 例 「自分の考えを話せるとき」、「ありがとうと言われたとき」 ・息苦しく感じるときはどんなときなのか考える。 例 「傷付く言葉を言われたとき」 <p>・《HEIWA の鐘》の歌詞を読み返し、自分たちの生活と結びつける。</p> <p>例 「♪脅かすことでしか 守ることができないと」→暴言で従わせようとする事 「♪君が 一人立てば 変わるのさ」→困っている人に声をかけること</p>	<p>◇「日常の平和」に気づいた子には、「みんなにとっての平和ってどんなこと？」と具体的に考えさせる。</p> <p>◇「平和」を分かりやすい言葉で解釈させる。</p> <p>平和=安心して過ごせる 平和ではない=息苦しいと感じる</p>
<p>○これまでの学習を踏まえ、自分たちの合唱で他者に平和を伝えるために《HEIWA の鐘》の音楽表現を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌で伝えたい思いや願いをワークシートに記入する。それをもとに、クラスとしてどんな合唱をしたいかを話し合う。 〈演奏のポイント〉 ・冒頭の「LALALA」は、鐘の音が遠くまでまっすぐ響くイメージで歌う。 ・「よみがえれあの時代へ」～「永遠に語り継ぐのさ」の部分は、拍感を大切にしながら、軍歌を思わせる力強いリズムにのって前進するように歌う。 ・「脅かすことでしか」～「愚かな権力よ」は、戦争の悲惨さを伝える歌詞を、静けさや切なさの感じる旋律にのせて語りかけるように歌う。音量は減らさず、母音を丸く、深く発音しながら流れるように歌う。 ・「いつか自由な空が」～「風に高く大きな」は女声パートと男声パートが分かれて歌う部分である。戦時中、戦いに赴いた男性と家庭を守った女性がそれぞれの立場から平和への思いを語っ 	<p>◇生徒一人一人が平和を伝える主体であるという意識をもち、《HEIWA の鐘》を歌うために必要な技能の向上だけでなく、歌詞や曲想に込められた思いや願いに目を向けさせる。</p> <p>◇ワークシートの記入や話し合いの場面では、正解を求めるのではなく、生徒それぞれの感じ方や考えを尊重し、安心して意見を出せる雰囲気づくりを大切にする。</p> <p>◇演奏のポイントは、教師が提示するのではなく、生徒が歌詞の意味や音楽的特徴と結び付けながら考えられるようよう支援する。例えば、音量や発音、ブレスなどの技術的な指導は、「どのように歌えば聴き手に思いが伝わるのだろう」と問いかける。特に、女声パー</p>

<p>ているようである。両パートは同じ声量で歌い、互いの声をよく聴く。そして、フレーズの終わりの「しあわせ贈るだろう」はユニゾンとなり、共に未来へ進もうとする決意である。直前の八分休符でブレスを取り、発声を揃える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サビの「ぼくらの生まれたこの地球に」～は、全パートのリズムが再び揃う。発音（特に子音）やブレスを合わせて歌う。 ・終わりの「HEIWAの鐘は君の胸に響くよ」は観客に投げかけるように、未来への願いを込めて歌い切る。 ・曲全体の感情の流れ（悲しみ→決意→希望）という変化を意識し、声の強さや明るさ、表情で段階的に表現する。 	<p>トと男声パートが分かれる部分では、それぞれの旋律や歌詞が表している立場や思いに着目させ、互いの声を聴き合いながら、合唱の一体感を意識できるようにする。</p> <p>◇合唱発表会に向けて、上手に歌うことだけを目指にするのではなく、聴き手に何を伝えたいのかを常に振り返りながら練習を重ねられるよう声かけを行う。</p>
<p>○合唱発表会で《HEIWAの鐘》を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争や平和、鐘について学んだこととそれに対する自分たちの思いをパンフレットにまとめ、合唱発表会で保護者や他学年の生徒に読んでもらう。（パンフレットは、総合的な学習の時間で作成する。） <p>○学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱発表会を終え、振り返りをワークシートに記入する。ワークシートは以下の構成とする。 <ol style="list-style-type: none"> ① 合唱を通して聴き手に伝えられたと思うこと ② アンケートや聴き手の様子から感じたこと ③ 学習によって気付いた平和についての考え方の変化 <p>例 「LA～♪の部分が鐘に似ていると思っていたけど、曲そのものが鐘のような存在なのかな」</p> <p>「鐘のように、歌に込めた思いが世界に伝わって欲しい」</p> <p>「歌をうたって、世界中の人々と繋がりたい」</p>	<p>◇合唱発表会後には、聴き手からの感想やアンケートの内容を生徒に積極的に伝え、自分たちの表現が他者にどのように受け取られたのかを具体的に振り返らせる。</p> <p>◇振り返りでは、合唱の出来だけでなく、学習を通して平和についてどのような考えの変化があったのかに目を向けさせ、音楽は他者とつながり、思いを届けられるものであることに気付くことができるようにする。</p>

